

# 中咽頭癌

中咽頭癌に対する治療方針を表 1 に示す。p16 陽性/陰性に分けて治療方針を決めている。基本方針として、p16 陽性例では (C) RT>手術とし、p16 陰性例では手術> (C) RT としている。p16 陽性例では進行 T 症例でも CRT を施行する症例が多いが、N+例では先行頸部郭清 (ND) を施行することがある。p16 陰性例において、進行 T や N+症例では手術を施行し、術後照射を行うことが多い。早期 T かつ N+症例では、先行 ND を施行することがある。導入化学療法を施行して、chemoselection を行うことがある。

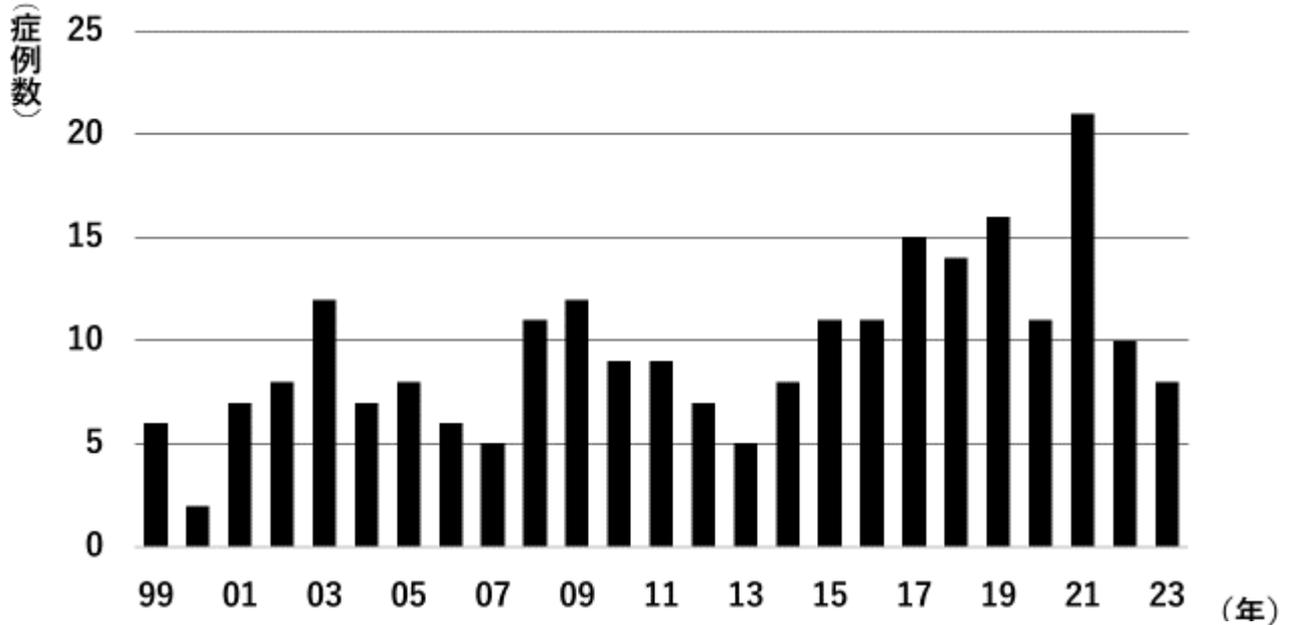


図 1：中咽頭癌の年度別症例数

1999 年 9 月～2023 年 10 月までの手術症例数。2010 年以降では年間 10～20 例の治療を施行した。

## p16陽性例

- ▶T1-2N0 ①経口的切除  
②CRT (CDDP併用)
- ▶T1-2N+ ①CRT (CDDP併用)  
②経口的切除 + TND
- ▶T3-4N0 ①CRT (CDDP併用)  
②腫瘍切除 (再建術) + T(S)ND
- ▶T3-4N+ ①腫瘍切除 (再建術) + TND  
②CDDP併用RT

## p16陰性例

- ▶T1-2N0 ①経口的切除  
②CRT (CDDP併用)
- ▶T1-2N+ ①経口的切除 + TND  
②腫瘍切除 (再建術) + 患側TND  
③CRT (CDDP併用)
- ▶T3-4N0 ①腫瘍切除 (再建術) + TND  
②CRT (CDDP併用)
- ▶T3-4N+ ①腫瘍切除 (再建術) + TND

① ②は優先順位を示す

◆ 導入化学療法 (CDDP + 5FU) を施行することも多い (chemoselection)

◆ T4、断端陽性、2個以上のリンパ節転移、節外浸潤例には術後 (C) RT を施行

表 1：中咽頭癌の治療方針

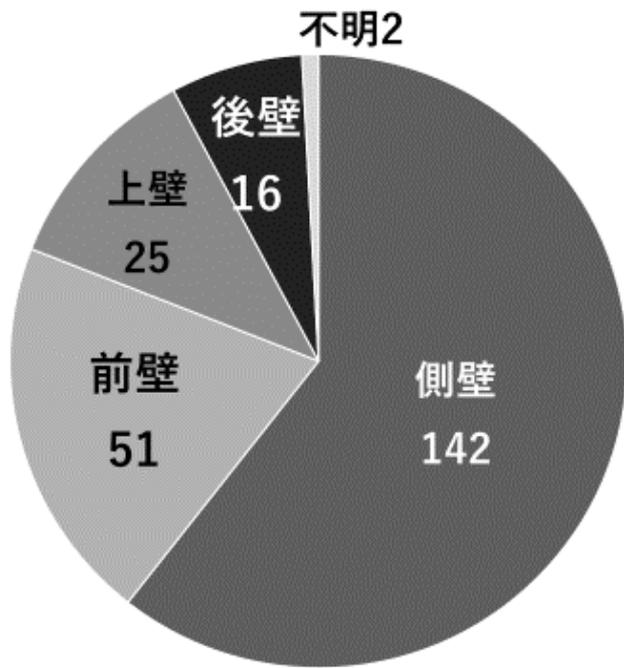


図2：中咽頭癌（全例）の亜部位別症例数

中咽頭癌 236 例中、側壁が最も多く 142 例（60%）を占めた。

T \ N	N0	N1	N2	N3	計
Tis	2	2	0	0	4
T1	20	10	12	1	43
T2	42	25	31	2	100
T3	14	11	18	0	43
T4	7	8	29	2	46
計	85	56	90	5	236

表2：中咽頭癌の TN 分類別症例数

中咽頭癌 236 例中、Tis が 4 例、T1 が 43 例、T2 が 100 例、T3 が 43 例、T4 が 46 例であった。N+は 151 例（64%）であった。

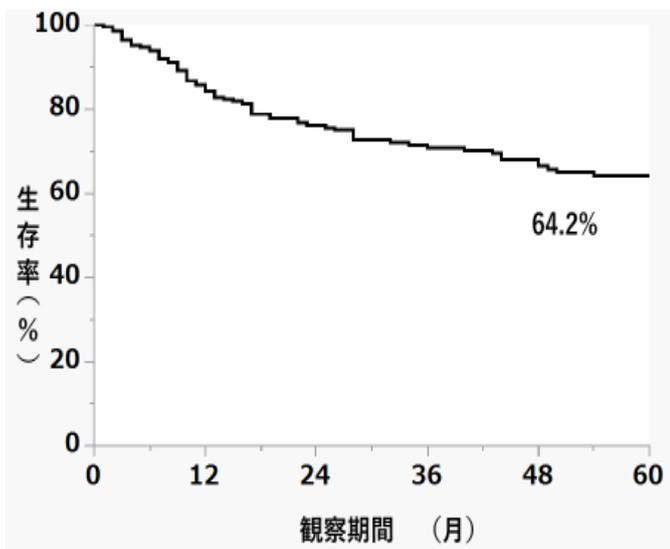


図3：中咽頭癌の疾患特異的生存率—全症例（236例）

全症例の疾患特異的5年生存率は64.2%であった。

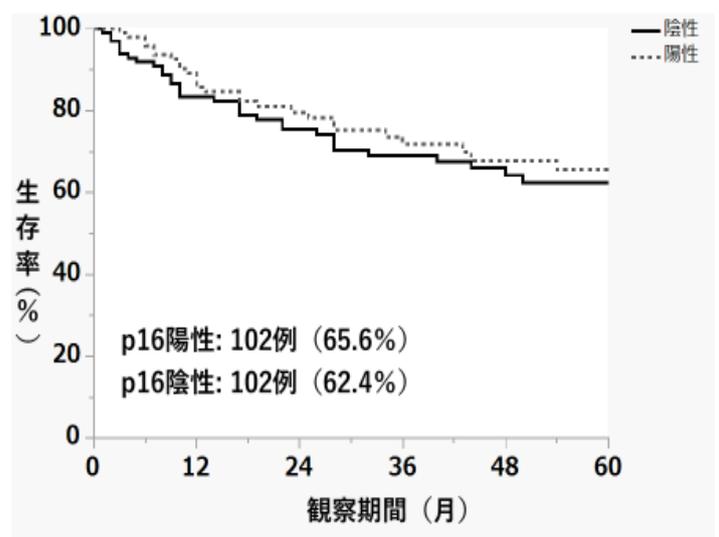


図4：中咽頭癌の疾患特異的生存率—p16陽性とp16陰性（204例）

p16陽性とp16陰性の疾患特異的5年生存率は、p16陽性が65.6%、p16陰性が62.4%であった。

## 中咽頭癌 p 16 陽性

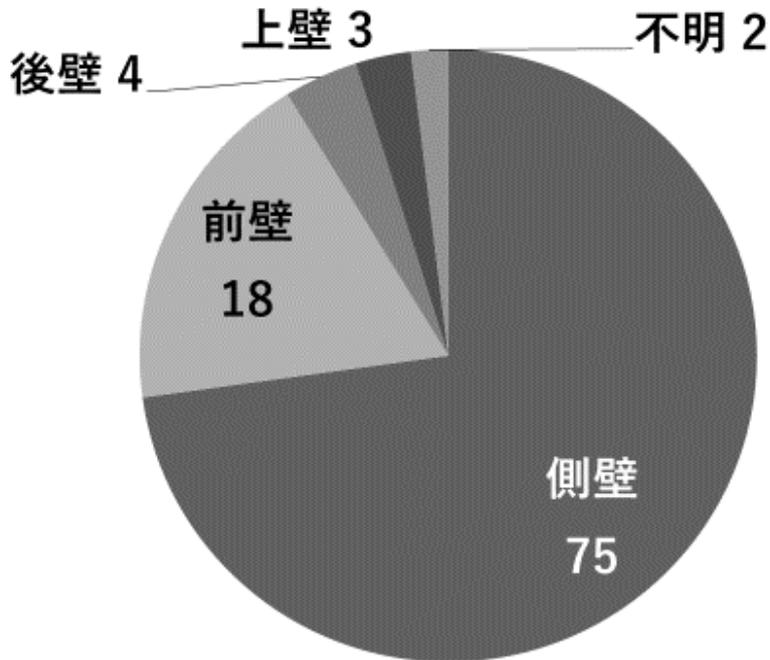


図 5：中咽頭癌 p 16 陽性の亜部位別症例数

中咽頭癌 p 16 陽性 102 例中、側壁が 75 例（74%）を占めた。

T \ N	N0	N1	N2	N3	計
Tis	0	2	0	0	2
T1	4	13	4	0	21
T2	14	26	3	0	43
T3	6	8	4	0	18
T4	3	9	6	0	18
計	27	58	17	0	102

表 3：中咽頭癌 p 16 陽性の TN 分類別症例数

中咽頭癌 p 16 陽性 102 例中、Tis が 2 例、T1 が 21 例、T2 が 43 例、T3 が 18 例、T4 が 18 例であった。N+ は 75 例（74%）であった。

## 中咽頭癌 p 16 陰性

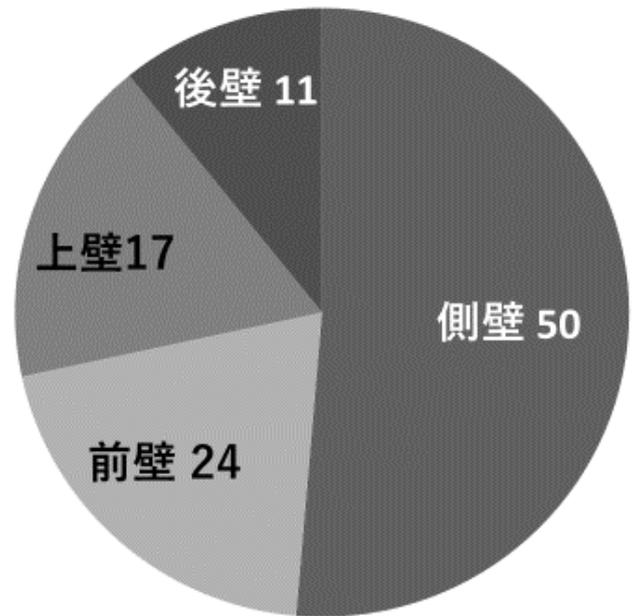


図 6：中咽頭癌 p 16 陰性の亜部位別症例数

中咽頭癌 p 16 陰性 102 例中、側壁が 50 例（49%）を占めた。

T \ N	N0	N1	N2	N3	計
Tis	2	0	0	0	2
T1	14	3	4	1	22
T2	21	7	15	1	44
T3	6	2	6	0	14
T4	3	3	12	2	20
計	46	15	37	4	102

表 4：中咽頭癌 p 16 陰性の TN 分類別症例数

中咽頭癌 p 16 陰性 102 例中、Tis が 2 例、T1 が 22 例、T2 が 44 例、T3 が 14 例、T4 が 20 例であった。N+ は 56 例（55%）であった。

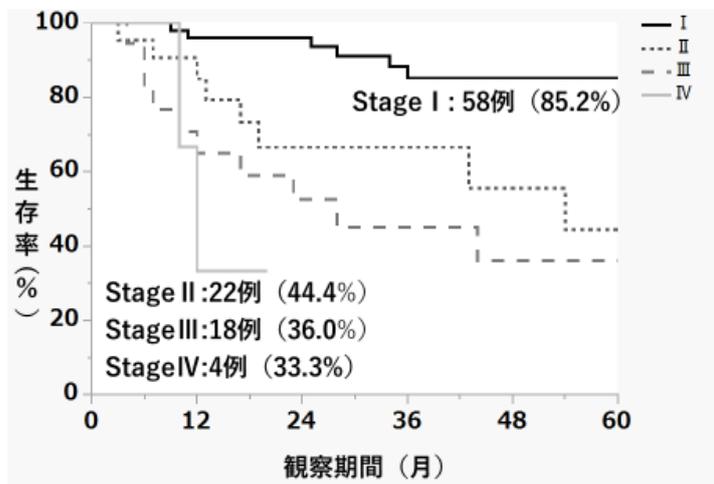


図 7：中咽頭癌 p16 陽性の疾患特異的生存率—ステージ分類別 (102例)

ステージ別の疾患特異的 5 年生存率はステージ I から IV でそれぞれ 85.2%、44.4%、36.0%、33.3%であった。

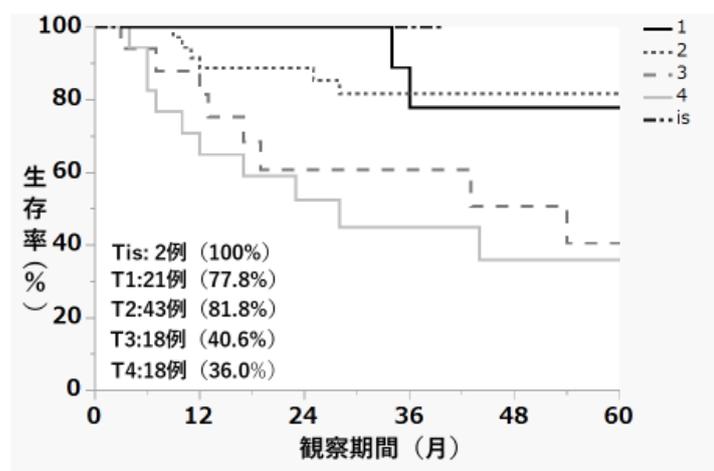


図 9：中咽頭癌 p16 陽性の疾患特異的生存率—T 分類別 (102例)

T 分類別の疾患特異的 5 年生存率は Tis から T4 でそれぞれ 100%、77.8%、81.8%、40.6%、36.0%であった。

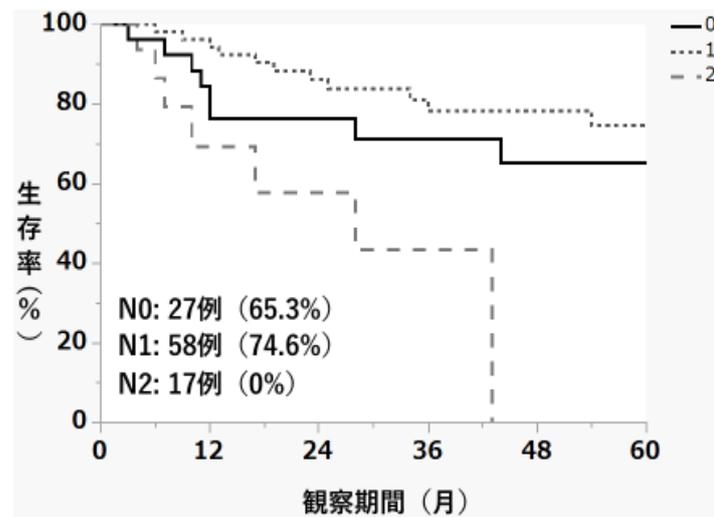


図 11：中咽頭癌 p16 陽性の疾患特異的生存率—N 分類別 (102例)

N 分類別の疾患特異的 5 年生存率は N0 から N2 でそれぞれ 65.3%、74.6%、0%であり、N2 症例は全例死亡していた。

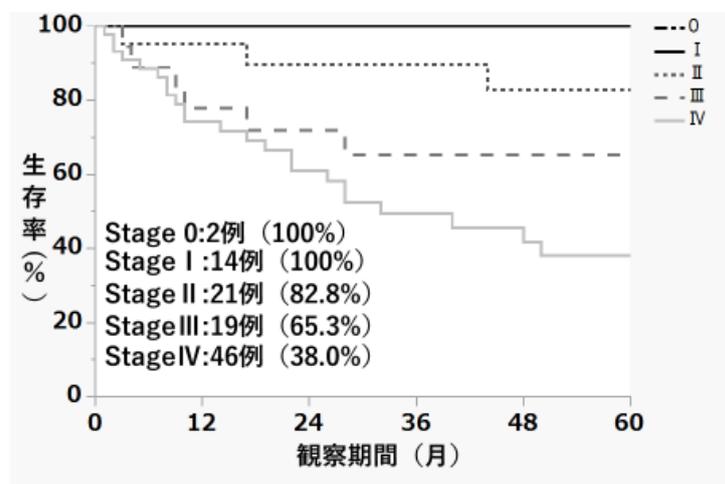


図 8：中咽頭癌 p16 陰性の疾患特異的生存率—ステージ分類別 (102例)

ステージ別の疾患特異的 5 年生存率はステージ 0 から IV でそれぞれ 100%、100%、82.8%、65.3%、38.0%であった。

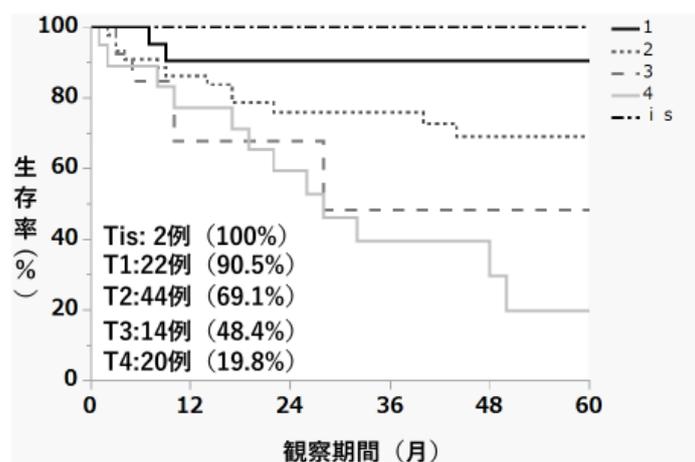


図 10：中咽頭癌 p16 陰性の疾患特異的生存率—T 分類別 (102例)

T 分類別の疾患特異的 5 年生存率は Tis から T4 でそれぞれ 100%、90.5%、69.1%、48.4%、19.8%であった。

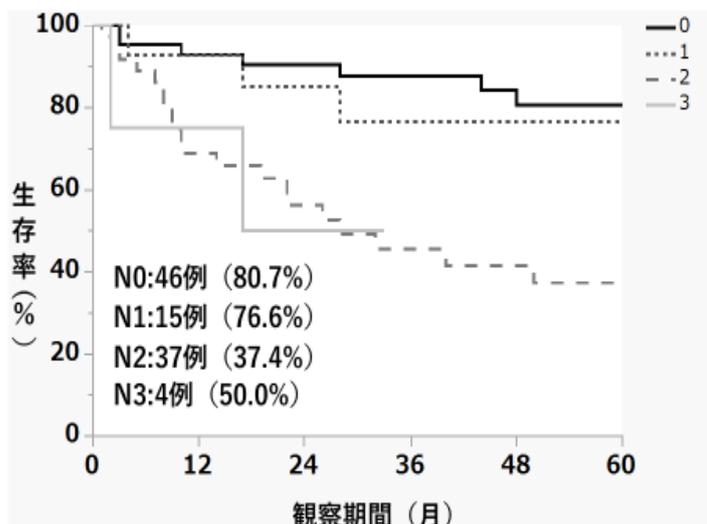


図 12：中咽頭癌 p16 陰性の疾患特異的生存率—N 分類別 (102例)

N 分類別の疾患特異的 5 年生存率は N0 から N3 でそれぞれ 80.7%、76.6%、37.4%、50.0%であった。